

2021/06/25 12:00

空洞化どこ吹く風 半世紀たっても元気な商店街 鹿児島市の通称「モンブラ」 ラーメン、イタリアン、洋菓子店… 相乗効果で客呼び込む

鹿児島市の玉里団地中央商店街「モンキープラザ」が元気だ。空洞化対策に頭を悩ませる商店街が少なくない中、入居するラーメン店や洋菓子店が人気を集め、相乗効果で周辺の店にもにぎわいを増している。

商店街は、玉里団地の造成に合わせて鹿児島開発事業団が1973年に建設した16戸の店舗付き住宅。道路向かいの店舗と共用の駐車場を備える。鹿児島の猿楽発祥の地とされる坂元町催馬楽（せばる）が近いことからモンキープラザと命名。住民からは“モンブラ”と呼ばれ親しまれている。



週末ににぎわうモンキープラザ＝鹿児島市玉里団地1丁目

拡大

30年以上営業する「フラワーフルーツ」店主の川瀬清一さん（70）によると、布団や文房具など多くの店が入退去を重ねてきた。現在は13店で、イタリア料理や昭和のレトロ感あふれる喫茶、ベーカリー、理容室などがそろい、客層も幅広い。

にぎわいの呼び水となったのは鹿児島らーめんたけ家。代表の末永剛史さん（42）によると、2012年の開業当初は客も少なく、場所をよく聞かれたという。開業3年目でテレビ局のラーメン王決定戦で入賞し、注目が集まった。コクのある味を求め、昼時は多くの客が列を成す。

隣のアトリエニコは19年開業の洋菓子店。ケーキやチョコレートのほか、夏は“インスタ映え”するかき氷が大人気だ。

代表の入船和紀さん（41）は「商店街に再び昔の活気を取り戻したい」と出店。インスタグラムなどで積極的に発信し、千葉や京都など県外からも客が訪れる。「昔からの商店街で親しみやすさがある。駐車場が広く、アーケードもあって雨の日も利用しやすい」とPRする。

開業10年を迎えた「情熱イタリアンY's」の坂元理瑛さん（46）は「食事を終えたお客さんから『どこから回ろうか』と聞こえてくる。商店街の魅力が広がり、各店が相乗効果を生んでいる」と話した。